

お陰様で100号達成

『おんがく広場』は4月10日創刊以来、お陰様で第100号を迎えました。皆様のご協力に感謝いたします。

今から遡ること半年前、指揮者の武田雅博先生がfacebookに投稿されたメッセージを目にした瞬間、私たちアマチュアは歌う場がないと嘆きだけで済むが、音楽を職業とされている方々にとっては生活手段そのもの死活問題だと悟りました。そこで武田先生にお願いし、そのメッセージを掲載させて頂いたのが発行のきっかけです。ここに再掲し初心に帰りたいと思います。

おんがく広場 第1号 令和2年(2020)4月10日(金)

リンクフリー・ご自由にコピーしてお使いください

発行・クッキー会 発行責任者・加藤良一
連絡先・rkato@max.hi-ho.ne.jp

コンサートも練習も中止(-.-)

4月7日新型コロナウイルス感染症の封じ込めのため非常事態宣言が発令されました。今のところ解除されるのは5月6日の予定です。その影響で日本中のホールや公民館などが軒並み閉鎖されてしまい、音楽活動が完全に止まってしまいました。

皆さんはどう対処していますか？ 自粛要請のためなるべく自宅にこもっているのでしょうか。ここはじっと我慢してウイルスが収まるのを待つしかないのでしょうか。

facebookには「集まれ合唱」「吹奏楽」などのグループがありますが、facebookをやらない人には残念ながら届きません。ネット利用が得意でない方も一緒になって情報交換できる場があっても良いのではと、この新聞を考えてみました。

ネットを利用した試み…

SkypeやZoomなどを使って人びとが集まらなくても済むオンラインでレッスンをしている方も出てきました。うまくいっていますでしょうか。成功例や失敗例などを皆さんに教えて頂けると助かります。その他にも、それぞれの団体でいろいろ工夫をしているのではないかと思います。こんな取り組みをしているとか、これが便利とかぜひみなさんにご紹介下さい。

♣男声合唱団コール・グランツの現状

一例として、私が団長をしている男声合唱団コール・グランツ(埼玉県久喜市)の現状をお知らせします。いつも使用している公共施設はどこも5月6日まで閉鎖となりました。まったく集まることが出来ません。

練習曲はいつもパート毎の音取り音源を用意しているので、今回もそれを使って自習するのが主な対策です。これだけでは不十分だと思っており、何かこんなときに出来ることはないかと模索しているところです。

(クッキー会とは埼玉県久喜市近辺の音楽愛好家の集いです)

職業音楽家の願い

音楽家・指揮者 武田 雅博

お願いです。僕のfacebookのお友だちの中には、合唱愛好家の方々がたくさんいらっしゃいます。きっと、断腸の思いで毎回の練習を中止されていることとお察しします。皆さんの生活の潤いが失われて、合唱したい！と思っていられることなのでしょう。元気を出してくださいね！

ここで本題です。そんな皆さんにお願いがあります。合唱の「先生」は、いったいどうしているでしょう。想像してみてください。もしも「先生」が合唱指導や演奏活動だけで食べている、フリーランスのプロの合唱指揮者なら…。もしも「先生」が若手の合唱指揮者なら…。「先生」が大金持ちの息子、娘なら心配無用です。

しかし現実には…3月中旬あたりから収入はゼロ。今後の見通しは立たず。家賃をはじめ経済的に追い詰められている頃なのではないでしょうか。僕くらいの年代になると、多少なりとも蓄えもあり、何とか生きていけますが若い合唱指揮者たちが心配なのです。

今、彼ら彼女らを経済的に救えるのは、皆さんしかいないと思うのです。大学合唱団員も考えてください。児童合唱団なら保護者の方々が考えてください。フリーランスの音楽家への救済制度を具体的に上げている国もあるようですが、日本は全く期待できません。フリーランス、しかも合唱指揮者をリスク承知で選んだのだから、自己責任……でしょうか。

合唱愛好家の皆さん、これからの合唱界を背負っていく、若い合唱指揮者たちを、どうか経済的に支えてあげてください。いつも練習に付き合ってくれるピアニストを支えてあげてください。

彼らは、中止された練習に関して自分から「キャンセル料ください！」とは言いづらくはまずです。僕だって言えません。以上、一応ベテランと言われる年代になった、合唱指揮者からのお願いです。

よろしくお祈りします！

おおかたの予想に反し、半年経っても新型コロナウイルスの猛威は一向に衰えを見せません。

それでも私たちには少しずつ見え始めてきたものもあります。多くの犠牲を払いながら蓄積してきた知識や経験があります。それを無駄にしないためにも、正しく対処したいものです。

今でもマスクが必需品であることに変わりはありません。しかし、普通のマスクは歌唱に不向きなので様々な工夫が凝らされ、かなり進化してきました。しかし、フェイスシールドやマウスシールドあるいはマスクが正しく選択されていないケースも散見され、まだ課題は残されています。

facebookの田平匡亮さんのメッセージ「最終的には合唱以外の生活が一番肝心。練習前後の生活スタイルからキチンとやっていくのが大事ですね。」という警鐘は、私たちにとって息苦しいことですが忘れてはならない重要なポイントです。